

第3回宍粟市都市計画マスタープラン検討委員会の主な意見と対応方針

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
項目	都市づくりの課題について				第2のダム機能としての拠点のあり方について			
主な意見	<p>・都市づくりの課題について、(6)～(8)の項目はわかりやすいが、(1)～(5)は内容が重なってところがある。「(2)都市のにぎわいと活力の創出」では、土地利用と都市基盤の問題も記載されている。「(5)都市基盤・交通ネットワークの整備、維持管理」の交通ネットワークは都市基盤の一つなので、交通ネットワークは「(3)都市機能の分担と連携強化」に入れた方がよいのではないか。</p>	<p>・人口が増えない、発展しないという状況での都市計画は、ストックマネジメントというが重要。また、コンパクトシティを形成することで、コストが削減でき、交通弱者に対応した歩いて暮らせるまちも実現する。それにより第2のダムとしての機能もより促進する。</p>	<p>・P19の都市づくりの課題の「(1)人口減少・少子高齢化への対応」の中で、「人口増加に向けたまちづくりを進める」とあるが、全国的に人口が減っていく中で人口増加を対した歩いて暮らせるまちも実現する。それにより第2のダムとしての機能もより促進する。</p>	<p>・「(3)都市機能の分担と連携強化」については、「分担」というのが生活サービス機能と都市機能の分担ということなのか、何の分担を示しているのかを定義をしっかりとした方がよい。</p>	<p>・第2のダムとはどういう機能か。言葉としての定義づけをちゃんとしていた方がよい。 ・旧山崎町を第2のダムとするのはもう議論されていて、それをどう実現に結び付けていくのかというのがここでの議論である。</p>	<p>・波賀や一宮から転出する人が、山崎ではなく姫路などに行ってしまふ。外部に流出していくのを、今後防がなければならぬ。第2のダム機能を促進するために何か方針を打ち出さなければならない。</p>	<p>・都市拠点＝第2のダム機能だと思っている。商業拠点、文化拠点、医療拠点などが含まれている。都市拠点にぶらさがる形で整理した方がいい。</p>	<p>・都市拠点の範囲を決めると、具体的にその中身をどうしていくかという議論になっていく。どういう考え方でどういう範囲を決めるか、宍粟市にとって重要である。これまでは山崎の中で強弱をつけず開発してきたと思うが、今後はメリハリをつける方向性になっていくと思う。</p>
対応方針	<p>ご指摘どおり(5)を(3)に統合し、項目名称を「(3)都市機能、生活サービス機能と市内外の交通ネットワークの充実」に変更。</p>	<p>ストックマネジメントの重要性についてはP19(修正後P20)課題の(1)とP33「5都市づくりの基本方針」の(6)に記載済み。</p>	<p>「人口増加に向けた」を削除する。</p>	<p>都市機能と生活サービス機能の意味がわかりやすくなるよう、現状の文章を「中心市街地には、全市的な都市機能として、市役所や防災センター、文化会館などの公共施設のほか大型商業施設等が集積しており、各市民局周辺には、小規模な商業施設や福祉サービス施設など一定の生活サービス機能の集積が見られます。」に修正する。 タイトルを「(3)都市機能、生活サービス機能と市内外の交通ネットワークの充実」として、機能分担ではなく、それぞれの機能の充実を図っていくこと強調する。</p>	<p>P4上位・関連計画において、総合計画で位置付けられている「将来の都市構造」の人口流出抑制のダム機能について詳しく記載する。</p>	<p>第2のダム機能を図る範囲(宍粟市の拠点)を都市構造図において「都市拠点のエリア」として位置付け、都市機能の充実、公共交通利便性の確保、良好な住環境の形成等の取組を分野別方針に位置付ける。</p>	<p>第2のダム機能の範囲(総計の宍粟市の拠点＝都市拠点のエリア)を「第2のダム機能を牽引するエリア」として用途地域+新病院+最上山公園を含むエリアとして位置付ける。</p>	<p>分野別方針の中でメリハリをつけるよう表現を工夫する。</p>

第3回宍粟市都市計画マスタープラン検討委員会の主な意見と対応方針

	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
項目	都市の将来像と基本方針について		都市構造について			現況資料への指摘	
主な意見	<p>・将来像と基本方針へのつながりがわかりやすいように、これらの間にもう一段階「基本目標」の位置づけがあったらよいと思う。個人的に基本目標として考えているのは、「歩いてくらす生活しやすいまちづくり」、「自然と歴史がかがやく美しいまちづくり」、「賑わいを創出する活力あるまちづくり」である。</p>	<p>・P31では「都市づくり」という言葉を使っている。「都市づくり」のほかに「まちづくり」といった表現もあるが、都市計画に基づいた実行のことを「都市づくり」というのかと思っている。そう考えると、「(7) 市民と事業者・行政の協働による都市づくり」は、「まちづくり」という表現の方が合っていると思う。</p>	<p>・播磨自動車道の工事は来年度末に完成する予定である。この都市計画マスタープランの期間の中では十分に機能しているので、P27の都市構造図に位置付けたらどうか。</p> <p>・P28、30の表の整理の中でも播磨自動車道のことを入れてほしい。</p>	<p>・29号線は一宮・波賀でとまるのではなく、そこから先にも続くように表現してほしい。また、広域連携軸という位置づけに変更してもらった方がいい。</p>	<p>・都市構造図の中で、揖保川、菅野川の表示がされているが、防災の観点からも河川は重要なので何か位置づけをすべきだと思う。山や田の位置づけがあるのであれば、川も何かゾーンの位置づけがあるのではないかと。</p>	<p>・P8の産業分類別就業人口の推移について、「第3次産業は増加傾向にあります」と書いているが、グラフでは増加していないので「ほぼ横ばいにある」という記載に修正した方がよい。</p> <p>・P21に「姫路鳥取自動車道」とあるが、適切な言葉は「播磨自動車道」である。</p>	<p>・P19「(1) 人口減少・少子高齢化への対応」の中で、「山崎都市計画区域における人口も～(略)～減少していますが、全市とくらべるとその傾向は緩やかです」とあるが、緩やかだから問題がないというように受け取れるので、「緩やかだが減少しています」と書いた方がよい。</p>
対応方針	<p>(1) 都市の将来像のあとに(2) 都市づくりの基本目標を追加する。課題～(都市の将来像)～基本目標～都市づくりの基本方針がつながる内容とする。</p>	<p>ご指摘とおり(7)は、「市民と事業者・行政の協働によるまちづくり」とする。</p>	<p>播磨自動車道を入れ、広域連携軸として位置付ける。</p>	<p>広域連携軸に変更し、養父市・鳥取方面に繋がる記載にする。</p>	<p>防災や潤い空間としての役割を持つ河川軸として位置付ける。</p>	<p>いずれもご指摘とおり修正する。</p>	<p>ご指摘とおり修正する。</p>